

# 公立高校の「探究」の授業で実施する ESD 視点での評価

奈良県立国際高等学校 松本 真紀

生徒数	350名	教員数	30名
<p>奈良県北西部、奈良市西部の住宅地にある。大阪と京都の県境に立地する。多くの生徒は電車やバスで通っている。学校の北側には新しい家々が建設中で、南側には1、2世代前からの住宅地が広がり、ベッドタウンになっている。本校は2020年度に、県立高等学校適正化実施計画に基づき、開校したばかりの新設校で、来年度ようやく3学年がそろう。同じ校舎のもうひとつの高校(今年度で閉校)は35年この地にあり、地域とのつながりを構築し、つないでくれた。</p>			

## ルーブリックについて

学校設定教科「国際教養」の科目である「グローバル探究」は各学年に3単位ずつ設定されており、教育活動の中心と位置づけられている。持続可能な社会、みんながしあわせな社会を構築するために何ができるか、を探究する。

生徒は6つのゼミにわかれ、さらにそれぞれにテーマを設定し、探究活動を行う。開校2年目の夏、彼らの活動をどう評価するか、が私たち教員の大きな課題となっていた。それぞれのチャレンジをどう評価するのが適当か、生徒たちの「がんばり」や「成長」を見守りたい、しかし、「評価」という言葉が生徒らのプレッシャーになることは避けたい。ひとりひとりにフォーカスした評価になること、活動の見取りになることを目指した。

「グローバル探究」の評価はESDの視点を取り入れよう、そして、本校が育てたい力を評価の軸にしよう、と、今回の評価手法の中の評価要素を本校らしく、取り入れることにした。

## 評価手法を適用した実践紹介

P5 - P9 参照 

「グローバル探究ⅠⅡ」における生徒たちの自己評価、教員の生徒評価規準を作成するにあたり、参考とした。「グローバル探究」は地球規模の課題について、3年間を通して行う探究活動である。1年生後半より6つのゼミにわかれ、それぞれのテーマで探究を行う。生徒が取り組むテーマは多岐にわたるが、社会の問題を知り、自分とのつながりに気づく、問題解決のために何が

できるかを考え、実践する、を目指す。持続可能な社会をどう作るか、どう生きるかがテーマになるグローバル探究の活動であるからこそ、その活動の評価にESDの視点を取り入れるのが妥当だということになった。

「グローバル探究」で生徒たちは成長するために山を登る。山登りの道はさまざまで、登るペースも違う。それでも茂みを切り分けて歩む生徒たちに「元気になる評価」「背中を押す評価」をする。どう背中を押すかは生徒たちそれぞれで異なるが、成長してほしいポイントは同じにする。担当者全員がポイントを理解した上で、声をかける。探究は教えるわけではない。あくまでも、寄り添う。生徒たちと併走する担当者全員が見つめる視点を合わせるために、この評価手法を元に、本校独自の評価シートを作成した。

本校には育てたい6つの力がある。今回のESDの評価手法をそのまま取り入れてしまうと、評価のものさしが複数になり、複雑になってしまう。教員も何を基準に、どこを目指して評価をすればよいのか、新たなものさしを受け入れるハードルが上がってしまう。しかし、本校の6つの力とESDの評価は整理の仕方が異なるだけで、重ね合わせることができる。それに、ESDを実践してきた教員が集まって作成した評価項目なので、評価の規準にするには妥当性がある。ということで、評価項目をそのまま用いるのではなく、本校が育てたい6つの力に整理して、重ね合わせていくことにした。その段取りは以下の通りである。

1. 本校の6つの力のルーブリックの文言で、どの部分が特に重要かを共通認識する  
(ポイントに架線を引き、教員全員で確認…①)
2. 評価手法の評価要素を分解する
3. 本校の育てたい6つの力のルーブリックにあてはめる
4. 6つの力それぞれの4つのレベルにおいて、1.で引いた下線部の達成に必要な評価要素を考える(教員研修を行い、教員全員で選ぶ)
5. 全員の意見から、2項目ずつを抽出
6. 文言を整理し、生徒や職員にわかりやすい言葉・イメージしやすい言葉に置き換える
7. 本校独自のチェックシート作成

夏季休業中に職員研修を兼ねて、担当者全員で評価項目を取捨選択する時間を持った。また、学校教員だけではなく、外部のアセスメントの専門家にも協力・ご指導いただき、1.~7.を進めた。完成したのが、「成長チェックシート」…①である。

これは2学期以降、9月、12月、2月の3回実施した。生徒たちには、特にレベルは意識せず、その時できると思うことにチェックをつけてもらう。いくつチェックをつけてもかまわない。できるものにチェックをつけよう、と声かけをする。また、このシートには何ができればどの力がついたのか、が「見える化」されていることから、毎時間の授業でシートを手元に置く。

さらに毎回の「グローバル探究」の授業のふりかえりをするための記述式の「セルフチェックシート」…②も作成した。月ごとに1枚のシートにし、毎月自分がどの力を意識しようか、目標を立てる。毎授業の終わりの5分でその時間をふりかえり、自分がその日できたことを記録する。どの場面でそれができたのか、その行動もできるだけ書くようにする。参考に、成長チェックシート①を使う。担当者は毎回シートを回収する。担当者は月に1度、生徒たちの「背中を押す」コメントをする。

さらに、教員皆で共通理解したのは、「評価」という言葉を使わないこと。シートにも「評価」の文字はない。「チェックシート」と呼ぶ。「評価」と聞くと、生徒たちが余計な気を使わないか、素直に自己評価を楽しめるだろうか、と心配する声もあったからだ。リラックスして、自分ができるようになることを楽しんでほしい。「評価」と聞くと、どこかで「成績」に結びつけてしまう緊張感や圧迫感を感じて欲しくない。素直にやってみよう、挑戦してみよう、と思えるように、あえて「評価」という言葉をやめ、「セルフチェック」という言葉に統一した。また、ゼミや学年全体で発表を行う場面においても、ESDの視点でのチェックシート…③を使った。プレゼンテーションのスライドや発表の技術だけでなく多角的に発表を見るようにした。この用紙と、発表者へのコメントシートを用いて、「評価」ではなく、「チェック」した。

最終的な評価については、生徒たちのこの2種類のチェックシートも参考にしながら、担当者で文章評価を行う。彼らの日々の活動から、項目に該当する力を抽出する。生徒それぞれの1年間の見守りと、次年度へつながるアドバイスや応援をする(今後実施予定)。

## 生徒の変容

毎月、今月はどの力を意識するか、何ができるようになりたいかを自分で考え、毎回の授業で(週に2回)確認することで、生

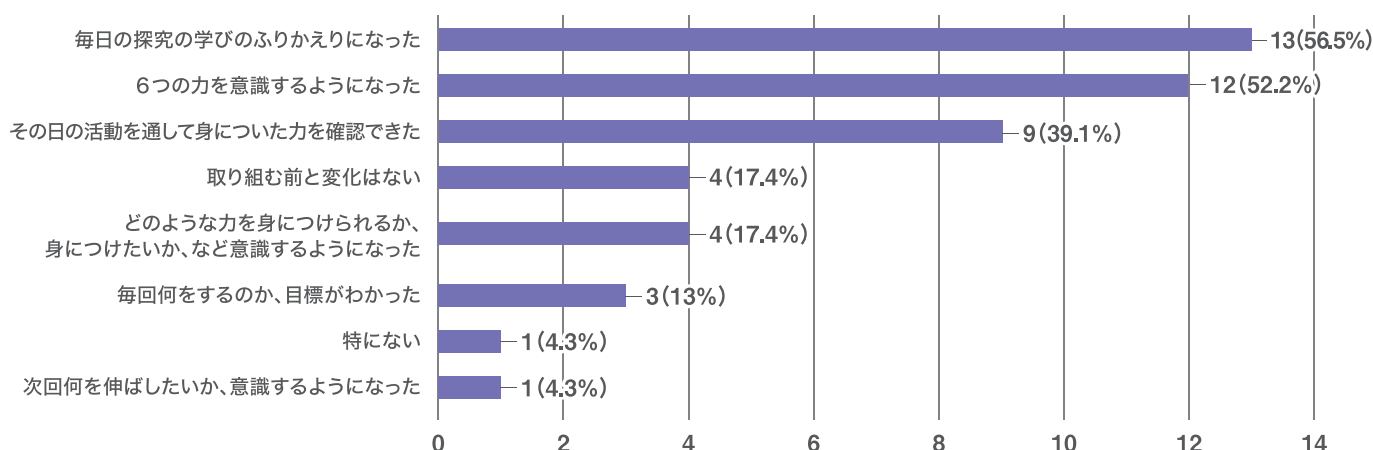
徒たちも6つの力を意識することが日常化してきた。成長セルフチェックシートの記入については、1年生がどんどんチェックをしていくのに対し、2年生は慎重で考え込む生徒もいた。探究活動が2年目になり、ひとつひとつのチェック項目を吟味している様子も見られた。どちらの学年も、1回目より2回目のチェックの数が増えたというよりは、2回目の方が慎重になっているようにも見受けられた。なんとなくチェックをするのではなく、きちんと自分と向き合っている様子で、そこにも生徒の成長が見られた。逆に、毎回のふりかえりのチェックシートについては書く・悩む時間が減った。チェックするポイントが身についてきているのではないかと思える。

デイリーチェックシートは、毎時間の終わりに書くことも定着し、書くことにも慣れた。より詳しく書くようになったり、自分自身の記録としていろいろ書き込んだりするようになった生徒も多い。

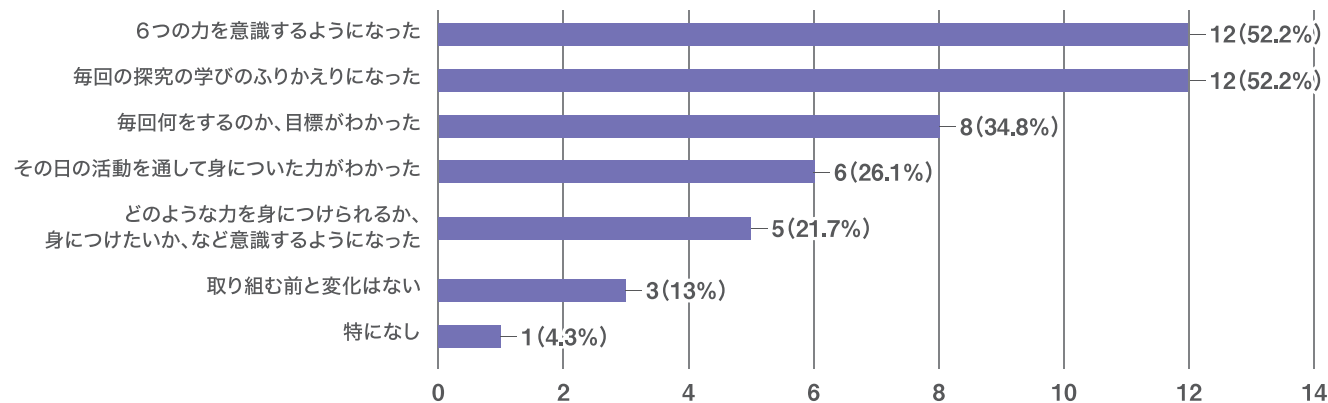
生徒へのチェックシートに関するアンケートを実施した(筆者が担当する2年生の探究ゼミ生徒25名)



毎回実施している「セルフチェックシート」について、あなた自身は取り組んでどうでしたか(複数回答可) 23件の回答



学期ごとに実施している「成長チェックシート」について、あなた自身は取り組んでどうでしたか(複数回答可) 23件の回答



アンケートでは「学びのふりかえりになった」「6つの力を意識するようになった」、「どのような力を身につけられたのか意識するようになった、など前向きな意見が多かった。

## 実践を通しての考察、発見、感想

「教員みんなで考える」プロセスに大きな意味があった。評価をするためには教員全体がきちんと理解すること・ESDの視点に関しても共通理解すること・「グローバル探究」の評価を自分たちで作ったと思えること、が大切、というアドバイスをいただき、夏休みに職員研修を実施した。

日々の業務に追われる中、短い時間ではあったが、しっかりと学校が示すルーブリックを読み込む、どんな力を育てたいのかを理解する、共通の視点を持つ、という時間は、保つべきであるが、流され気味であるので、とても貴重であった。

生徒へのアンケートでは、授業の終わりにチェックシートを記入する時間を設けているが、毎回のチェックシートでは「毎回記述なのが大変だった」学期ごとのチェックシートでは「同じような選択肢があり、違いが分かりにくかった」などの意見もあったので、今後さらに生徒たちの意見も参考にしながら、改良したい。



### 評価手法開発にあたり参考にした文献・書籍・教材

- ・ ACCU(2021)「変容を捉え、変容につながる評価のカタチ -SDGs時代を生きる学校教員の知恵-」

### 問い合わせ先

学校名	奈良県立国際高等学校
氏名	松本 真紀
電話番号	0742-46-0017
住所	奈良県奈良市二名町1944番地12
メールアドレス	matsumoto-maki-11@e-net.nara.jp(松本真紀)

		ルーブリック			
身につけたい力		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
1	探究力 知識を活用し課題を解決する力	生活や社会について考え、改善したほうが良いと考えていることがある	地域や社会で解決したい課題を見つけて、その原因や背景を考えられる	地域や社会のよりよい未来に向けて、改善すべき課題を見つめ、その原因を追求して、未来のあるべき姿を考えることができる	グローバルな視点から、世界的な課題の問題点やより良い未来の理想的な姿を示し、その実行可能性について検討することができる
2	創造力 新たなアイデアを生み出す力	与えられた情報を整理することができ	地域や社会の課題について情報を集め、分析・評価しながら改善すべき点を提示できる	地域や社会の課題やその解決のための内容を批判的に思考し、掘り下げ、解決に向けた案を提示することができる	自己の考えに固執することなく、グローバルな視点から創造的に考え、斬新なアイデアを生み出すことができる
3	協働力 協力・協働して互いに高め合う力	他者と積極的にコミュニケーションをとることができる	目標達成のために、集団の中で他者を助けたり、支援したりできる	課題解決に向け、集団の中で自己の責任を果たしながら、他者と協力して行動することができる	課題解決に向け、対話を通して、自己の主張や他者の意見を調整し、集団として士気を高めることができる
4	寛容さ 文化や考えの違いを大切にできる力	相手の立場や考えを気づかせる	相手の立場や考えを常に想像し、共感することができる	文化や考え等の違う相手にもあたたかく接して、他者の考えを尊重し、違いを認めることができる	自分とは違う意見や考え、経験を共有し、社会をより良くしていくための重要なものと考えられることができる
5	挑戦力 試練を克服し前進する力	与えられた指示に従い、自分の作業をすることができる	指示を待たず、課題を自ら発見し、取り組むことができる	課題に取り組む中で、失敗しても強い意志をもって、新たな挑戦を続けることができる	高い目標や志をもち、困難なことに向き合いつながら、意欲的・積極的・継続的に取り組むことができる
6	キャリアデザイン力 進路に向けて行動を起こす力	自己の適性について考えることができる	自己の適性を理解し、進路に関する情報を自ら集めることができる	希望する進路を実現するために、自己が直面している課題を把握することができる	希望する進路を実現するための課題を的確に把握し、解決のために行動を起こすことができる

2021年度 グローバル探究 成長セルフチェックシート		年 組 番号前		ゼミ	
ルーブリック		グローバル探究の授業の中で、自分ができると感じる活動にチェックを入れましょう			
身につけたい力	レベル	レベル内容	チェック数		
探究力	1	生活や社会について考え、改善したほうが良いと考えていることがある	<input type="checkbox"/>	積極的に考え、動くことができた	/ 8
	2	地域や社会で解決したい課題を見つけて、その原因や背景を考えることができる	<input type="checkbox"/>	筋道を立てて考えることができた	
	3	地域や社会のよりよい未来に向けて、改善すべき課題を見つけ、その原因を追求して、未来のあるべき姿を考えることができる	<input type="checkbox"/>	根拠を捉え、考えることができた	
	4	グローバルな視点から、世界的な課題の問題点やより良い未来の理想的な姿を示し、その実行可能性について検討することができる	<input type="checkbox"/>	自分のできることを考え、共有し、伝えることができた	
創造力	1	与えられた情報を整理することができる	<input type="checkbox"/>	その時だけのことを考えるのではなく、長期的に物事を捉え、問題解決ができた	
	2	地域や社会の課題について情報を集め、分析・評価しながら改善すべき点を提示できる	<input type="checkbox"/>	未来のあるべき姿を思い描くことができた	
	3	地域や社会の課題やその解決のための内容を批判的・思考で掘り下げ、解決に向けた案を提示することができる	<input type="checkbox"/>	原因を分析、情報を正確に理解し、適切に対処するためのより良い改善策を提案することができた	
	4	自己の考えに固執することなく、グローバルな視点から創造的に考え、斬新なアイデアを生み出すことができる	<input type="checkbox"/>	主張だけでなく、その根拠となる理由を明確に相手に相手に伝えることができた	
協働力	1	他者と積極的にコミュニケーションをとることができる	<input type="checkbox"/>	情報を取捨選択できた(論理観を持って情報を取り扱うことができた)	
	2	目標達成のために、集団の中で他者を助けたり、支援したりできる	<input type="checkbox"/>	情報を読み取ることができた	
	3	課題解決に向け、集団の中での自己の責任を果たしながら、他者と協力して行動することができる	<input type="checkbox"/>	さまざまなものの関連性を理解できた	
	4	課題解決に向け、対話を通して、自己の主張や他者の意見を調整し、集団として士気を高めることができる	<input type="checkbox"/>	得た情報を生かすことができた	
寛容さ	1	相手の立場や考えを気づかえる	<input type="checkbox"/>	一つの問題に含まれる多様な要素のつながりを理解できた	
	2	相手の立場や考えを常に想像し、共感することができる	<input type="checkbox"/>	与えられた課題だけでなく、自分の課題として捉えることができた	
	3	文化や考え等の違う相手にもあたたかかく接して、他者の考えを尊重し、違いを認めることができる	<input type="checkbox"/>	すでにあるものに対する知識を得た上で、自らの研究や調査から自分のアイデアを作り出すことができた	
	4	自分とは違う意見や考え、経験を共有し、社会をより良くしていくための重要なものと考えている	<input type="checkbox"/>	新しい価値や考えを生み出すこと(既存の知識を活かし、組み合わせること)ができた	

身につけたい力	ルーブリック		グローバル探究の授業の中で、自分ができたと感じる活動にチェックを入れましょう	チェック数
	レベル	レベル内容		
挑戦力	1	与えられた指示に従い、自分の作業をすることができ	<input type="checkbox"/> 日常の小さな実践を積み重ねていくことができた	/ 8
	2	指示を待たず、課題を自ら発見し、取り組むことができる	<input type="checkbox"/> 自分で考えて判断できた	
	3	課題に取り組む中で、失敗しても強い意志をもって、新たな挑戦を続けることができる	<input type="checkbox"/> 疑問(問い)を醸成し、問い続けていくことができた	
	4	高い目標や志をもち、困難なことに向き合いながら、意欲的・積極的・継続的に取り組むことができる	<input type="checkbox"/> 判断するために複数の情報から取捨選択し、自らの意思や決断に責任を持つことができた	
キャリアデザイン力	1	自己の適性について考えることができる	<input type="checkbox"/> 困難なことがあるが、あっても回復していきこうとする力(レジリエンス)を持つことができた	
	2	自己の適性を理解し、進路に関する情報を自ら集めることができる	<input type="checkbox"/> どんな環境でも課題を見つけ、解決に向けて取り組むことができた	
	3	希望する進路を実現するために、自己が直面している課題を把握することができる	<input type="checkbox"/> 成功も失敗も、最初から最後まで全て受け入れ、自信をもって発信することができた	
	4	希望する進路を実現するための課題を的確に把握し、解決のために行動を起こすことができる	<input type="checkbox"/> 課題を解決する際に、新たな問題にも気づくことができた	
+αの力	1		<input type="checkbox"/> 客観的に自分を捉えることができた	/ 8
	2		<input type="checkbox"/> 自分がわかっているかどうかを認識できる	
	3		<input type="checkbox"/> 自分を見つめ、向き合う課題を意識して、自分の気持ちをコントロールできた	
	4		<input type="checkbox"/> 持続可能なライフスタイルを自分で考えることができた	
* * * * * * * *	1		<input type="checkbox"/> 自分と進路とつなげ、課題の要素を含めて検討できた	
	2		<input type="checkbox"/> 自分の言動を客観視でき、自分で改善することができた	
	3		<input type="checkbox"/> 課題解決のアイデアやプランを持ち、将来実行しよう計画を立てることができた	
	4		<input type="checkbox"/> 将来の自分のキャリアに経験や考えを反映して言うことができた	
	1		<input checked="" type="checkbox"/> 今の自分が立っているところは世界と地続きであることを知っている	
	2		<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりが大切な存在であることを実感できている	
	3		<input checked="" type="checkbox"/> 不平等な状態に気がつくことができる	
	4		<input checked="" type="checkbox"/> 自分と他人の人権を通じた公平性の理解がある	
+αの力	1		<input checked="" type="checkbox"/> 国際社会とのつながりを意識できる	
	2		<input checked="" type="checkbox"/> その人らしく生きていくための価値、平和を守り続ける大切さを理解している	
	3		<input checked="" type="checkbox"/> 「公平」や「平等」に関する歴史的事実や現代社会の課題への理解ができている	
	4		<input checked="" type="checkbox"/> ころころなど、目に見えないものを想像することができ	
			<input checked="" type="checkbox"/> 「公平」や「平等」に関する知識を得た後に考え、議論していくことができる力がある	*

--	--	--	--	--

ゼミ	学年・クラス・番号	名前
	____年 ____組 ____番	

1. 【今月の目標】グローバル探究で意識して活動したい力を○で囲みましょう(いくつでも OK)

「活動チェックシート」や前月のセルフチェックシートを参照しながら考えてみましょう					
探究力 <small>知識を活用し課題を解決する力</small>	創造力 <small>新たなアイデアを生み出す力</small>	協働力 <small>協力・協働して互いに高め合う力</small>	寛容さ <small>文化や考えの違いを大切にする力</small>	挑戦力 <small>試練を克服し前進する力</small>	キャリアデザイン力 <small>進路に向けて行動を起こす力</small>

2. 【各時間における振り返り】自分が発揮できたと思う力とその具体的な場面を書きましょう

日付	曜日	自分の記録(発揮できた力には○をつける、いくつでも OK)							
月 日		発揮できた力	探	創	協	寛	挑	キ	<sup>+α</sup>
		どんな場面で何ができたか							
		その時感じたことは							
月 日		発揮できた力	探	創	協	寛	挑	キ	<sup>+α</sup>
		どんな場面で何ができたか							
		その時感じたことは							
月 日		発揮できた力	探	創	協	寛	挑	キ	<sup>+α</sup>
		どんな場面で何ができたか							
		その時感じたことは							
月 日		発揮できた力	探	創	協	寛	挑	キ	<sup>+α</sup>
		どんな場面で何ができたか							
		その時感じたことは							

フィードバックコメント



2021年度 グローバル探究学年発表会 プレゼンテーションチェックシート

名前		(例)	1	2	3	4	5	6	7
ルーブリック	身に付けたい力		かみん なら なち が う で う で う	グロ ー バ ル が 生 み 出 す 力 が	い の ち の 輝 き を 未 来 に 伝 え る	未 着 い 地 球 を 未 来 に つ な ぐ	み ん な で つ く る 笑 顔 の コ ミ ュ ニ テ ィ	先 人 の 知 恵 を 未 来 へ 届 け る	特 別 発 表 ( い の ち の 輝 き を 未 来 に 伝 え る)
	発表者がこれらがおおむねできていたと思えば、 チェックを入れましょう								
<b>探究力</b>	SDGs・社会課題に対して、解決できるアイデアを作り出していた 社会とつながったり、人との協働により、研究や実践を行った	✓							
<b>創造力</b>	伝えるべき情報をわかりやすく構成し、伝えていた 実際に自分たちで行動し、検証・改善もしていた								
<b>協働力</b>	アイデアや解決方法を提案したり、人を導いたりする力があつた 発表において、自他の意見を論理的に表現していた								
<b>寛容さ</b>	自分たちの考えに誤りや偏りがないか、確認できていた 意見の違いや立場の違いを理解し、場面に応じた適切な対応を取っていた	✓							
<b>挑戦力</b>	困難なことがあつても、向き合い、適応しようとする力(レジリエンス)を持っていた 日常生活の中で、サステイナブルな取り組みを実践していた	✓							
<b>キャリア デザイン力</b>	持続可能なライフスタイルを自分たちで考えていた 課題解決のアイデアやプランを持ち、将来実行しようとする計画を立てていた								
<b>+αの 力</b>	発表での方法やアイデアは未来のために有効であると思われる 提案された方法やアイデアは実行可能性がある 自分ごととして問題を捉え、解決に向けての取り組みがされていた								